

EPOCH@まつやま 2008 参加報告

古川 千尋

Chihiro FURUKAWA

九州産業大学 情報科学部 社会情報システム学科

Department of Social Information Systems, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University

2008年夏、当時私が2年生のとき、本学の卒業生で当時4年生の岩本先輩から一緒にEPOCH@まつやまに一緒に参加して欲しいと言われました。私はこれまで、プログラムの大会やコンテストに出場したことがなく、以前から興味があったため参加を決めました。

大会に参加登録すると最初に予選問題として3問与えられました。それぞれの問題を、早く(提出時期が早い)、正確で(全ての入力に対して正しい答えを出力する)、コンパクトな(処理時間が早く、使用するメモリ領域も小さい)プログラムほど高得点を得られ、上位20チームが予選通過となります。私たちのチームはとりあえず、1人が1問を担当し、残った1問は後で解く作戦になりました。ただ、完全に別作業というわけではなくお互いのソースコードを見せ合い、改善点を出し合いながら、作り上げていきました。結果、予選を通過し、本戦に進むことが出来ました。

本戦は愛媛大学で行われ、全国から予選上位でまず本戦第1ステージを戦い、上位4チームが本戦決勝進出。本戦は二日間に渡って行われ、初日が本戦第1ステージ、そして親睦会をかねての夕食会、二日目が本戦決勝となります。

私たちの結果は、本戦第1ステージで敗退となりました。本戦の問題は予選以上に難しく、思った結果を出せずに終了してしまいました。私たちは予選では完全に別々にプログラムしていたため、本戦で上手くチームワークを出せなかったことも敗因の一つに思えました。本戦では、二人に1台のコンピュータが与えられるため、タイピングできるのは一人のみだったからです。私たちは、一人が別の問題を考え、もう一人が解いた問題をタイピングするという作戦でした。しかし、エラーなどが出た際に、一人で対処しなければならないため、思ったよりはかどりませんでした。

本戦第1ステージ終了後には、夕食を兼ねての親睦会がありました。各チームの自己紹介や、周りのチームやスタッフ、主催者の方々と色々話しました。チームのこと、趣味や学校、地元のことなど、特にコンピュータ関係の話が面白かったです。

本戦決勝がある二日目は、決勝を観戦しEPOCH@まつやま2008は終わりました。

今回のコンテストを通じて、プログラムの勉強になったとともに、他校との交流や意見交換などは良い勉強になり、また良い刺激になりました。みなさんととても気さ

くで初対面でも話やすく、なによりとても楽しかったです。現在、今年のEPOCH@まつやま2009にもエントリーし予選の問題も提出しました。現在は予選の結果待ちですが、今年も松山に行き、去年以上の成績を残したいです。

EPOCH@まつやまとは

愛媛大学と松山市が主催するプログラミングコンテスト。年1回開催され、全国の大学生以下を対象に、与えられた問題を解くプログラムを速く正確に作ることを競う。1チーム2名での参加となる。